奇人話

力持ちの話や自慢話が昂じるとヘソ曲り奇人の話などが現われてくる。奇人・変人話も事実にもとづく話が多いようで、その中に十二所の足軽定吉の話がある。定吉は年貢の催促に歩く仕事をもっていて、行くとどこの家でも酒と肴で少しばかりのご馳走をしてくれた。しかし、たった一人の百姓は稀代の胆太男で、肴はもちろん酒も出さない。そこで定吉は腹にすえかねてドブロクを買ってきて手前鉄砲で飲んだ。それでも肴を出すはずもなく、定吉は肴のかわりに小柄で薦を切り取ってむしり食い、どじょうを生きたまま丸呑みし、あげくのはてに死ぬ思いをしたという。定吉も百姓も共にしたたか、双方何とも勇しい話である。